

大雪の日に枯木に花を咲かせたエノキタケ

菊地 栄子

「千葉菌類談話会」には発足時からお世話になっています。住まいは、川崎市の北部小田急線の沿線、近くには「多摩遊歩道」、「日本女子大」そして「遊園地よみうりランド」の森があります。

私が物心ついたとき、父は川魚釣りや山谷遊びを趣味としていました。私が小学2・3年の頃、父は高尾山で大きな茸を見つけ、4つ割りにしてJR中央線「高円寺駅」と「高尾駅」間を4往復して1本の大茸を家へ運んできました。その茸の傘は丸ちゃぶ台にやっと乗る大きさ、森の中のぽっかり空いた草原に一本生えていたそうです。父はイッポンと云っていましたがイッポンシメジは毒茸、家中皆で食べても誰も中毒しませんでした。私は今ではウラベニホテイシメジ？ではなかったか思っていますが、亡き父に聞く事は出来ません。嘘のような本当の話です。

なぜか榎に生えたエノキタケが見たかった

20数年前、私は稲城市の森で、キャンプで使えたらいいねと、子供たちと色々なキノコを採っていました。椎茸栽培のおじさんに見てもらおうと「みんな毒キノコだ」、「椎茸あげるから捨てなさい」と云われてしまいました。キノコの名は尋ね聞いても、本で調べても解りません。そんな時、「菊地さん、今キノコの講座やってるよ」と市民館の職員が声を掛けてくれました。そっと覗くと「エノキタケは榎、柿、ハリギリ等の枯れ木や切り株に生える」そして「冬のキノコ、柄にはビロード状の毛がある、胞子紋は白、キシメジ科」と旧神奈川県立博物



館学芸部 生出智哉氏のお話でした。そしてキノコ探しには樹木（枯木・朽木）との関係を理解することが大切だと知りました。

榎に生えたエノキタケを見たい！川崎市の最北部、黒川には榎の葉に卵を生むオオムラサキがいます。榎探しの雑木林や篠竹の藪漕ぎ、小さな谷間に苔むした榎の細い枯れ木を発見。その冬は例年にない降雪、小田急多摩線黒川駅から徒歩3km、やっと辿り着いた谷間は雪の吹きだまりで1m以上の積雪、泳ぐように近付くと、細い榎の枯木に花が咲いたようにエノキタケが生えていました。キノコに取り憑かれた瞬間でした。